

独立行政法人  
国立病院機構  
National Hospital Organization



うれしの

2014.2

第38号

【発行所】  
嬉野医療センター  
佐賀県嬉野市嬉野町  
大字下宿内2436番地



「初日の出」

### 患者さんの権利

- |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利</li> <li>2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利</li> <li>3 治療法を自由に選択し、決定する権利</li> <li>4 プライバシーが守られる権利</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5 常に人としての尊厳を守られる権利</li> <li>6 医療上の苦情を申し立てる権利</li> <li>7 継続して一貫した医療を受ける権利</li> <li>8 生活の質 (QOL) や生活背景に配慮された医療を受ける権利</li> </ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## CONTENTS

② 年頭の挨拶

③ 新病院建設だより・・・シリーズ No.3

④ 学会報告 … 看護部・研修医

⑤ 認定看護師紹介

⑤ 糖尿病食事を開催しました

⑥ 第61回生 「誓いの式」

⑦ 第44回 嬉看祭

⑧ 編集後記

基 本 理 念 「ひとり一人を大切に」



## 年頭の挨拶

昨年度の流行語では、「今でしょ」や「じぇじぇじぇ」「倍返し」などがありましたが、エコノミクスならぬアベノミクスという言葉もいろんな所でたくさん使われました。今までの所、株価の上昇、円高是正と数値的には経済活性化の気運がみえてきていますが、本格的なデフレ脱却、そして日本経済の復興には、今後、4月より8%になる消費税増税の影響を無難に切り抜けた上での地域経済の活性化が起こるか否かにかかってくると思われます。医療分野も少しずつ変わろうとしています。年々押し寄せる少子高齢化の波によって、国民医療費は益々ふくれあがっていく可能性があります。国民皆保険制、更には、どの病院にもかかることのできるフリーアクセス制は、国民の平均寿命が世界的にもトップレベルである事実と相まって日本が誇る医療制度であることを私達は認識すべきであろうと考えています。

しかしながら、医療費の高騰はすでに現状の医療保険の継続が困難な状況を生み出しつつあることも理解しなければいけません。昨年の夏に提出された社会保障制度改革国民会議の報告書には、今後の医療制度のあり方について多くの意見が述べられています。継続可能な日本の医療保険制度の確立の為に、これまでと同様では成り立たない。従って、出来るだけ無駄のない医療制度であるべきであり、その為の種々の提言がその報告書に盛り込まれています。「地域完結型医療」「地域包括ケアシステム」などはその報告書のキーワードでありますし、それぞれの地域に於ける「地域医療ビジョン」に従って「ご当地医療」を行っていくことが示唆されています。また、医療から介護に繋げて、川が上流から下流へ流れるようにケアが行われていくべきであることが述べられており、かかりつけ医の必要性が説かれています。また、それぞれの病院群は、それぞれの役割に見合った機能を行うべく、その棲み分けがなされていく方向にあります。私達は今後決められた範囲の中での社会保障費をどのように有効に使っていくのか、が問われてきています。おそらく、これらは国民一人ひとりが考えていかなければならないことかと思われます。つまり、医療や介護にどの程度の費用をかけていけばいいのか、もしかしたら、年金額と比較した形で考慮していかないといけなくなるかも知れません。更には、自由診療と保険診療の問題、医療における格差が存在していいのか等、問題は多岐に広がっています。

しかしながら、現時点で私ども嬉野医療センターが行う事は、あるいは行わなければならない事は、日々の診療であり、目の前の患者さんへの対応であります。これらの患者さんの診療は医師のみによるものでなく、看護師、看護助手や薬剤師、薬剤助手、診療放射線科技師、検査技師、理学・作業療法士、言語聴覚士、臨床工学士、医療ソーシャルワーカー、診療録管理士、管理栄養士、調理師、医師事務補助、ボイラー技士、電気士、事務、事務助手、清掃、警備等の多彩な病院職員のお陰で成り立っています。即ち、日々の診療を行い地域の患者さんに貢献することが嬉野医療センター全体の意思であり、一致した目標でもあります。そして、このような日々の診療を通じて、嬉野医療センターが行うべきことは、この地域の特に高度急性期の医療を全面的に預かり、地域で完結する医療を牽引することだと考えています。

ご承知のように平成30年には新幹線嬉野温泉駅（仮）前に新病院を建設し、移転する計画です。嬉野市における嬉野医療センターの役割が鮮明に実現されることとなります。今後益々高齢化する地域にとって、安心して生活できる住居地として医療は欠かせないものとなるでしょう。お茶と温泉と陶器の街、嬉野に安心のイメージを加えた新しい嬉野市になる為の一步を今年も進んでいくこととなります。



# 新病院建設だより

シリーズ No.3

みなさんすでにご承知のとおり、1月20日付で、国立病院機構本部より新病院移転新築整備の承認を得ることができました。いままでの建設委員会、部門別検討会などでの意見、アイデアをいよいよ少しずつ具現化していくことになります。

今後は、整備スケジュールに従って、基本設計、土質調査、実施設計、本体工事、検査、引っ越し、開院という流れで、具体的な病院建替プランを練っていくことになります。

同時に、嬉野市の都市区画整理事業（建替予定地整備含む）担当部署との連携をよりいっそう密にしていかなければなりません。病院本体のことだけでなく嬉野市全体の街づくりとの整合性をも念頭に、建替整備を進めていくことが重要となっていきます。

## ◆承認概要

移転新築整備

病院本体

- 病棟数424床

10看護単位（既存9看護単位＋新設1看護単位[救命救急センター]）

- その他部門

看護学校、学生寮、保育所、研修施設

## ◆主な留意事項

- 整備にあたっては、まちづくりに関する計画（嬉野市都市計画等）との整合性等を踏まえつつ、敷地貸付（医療福祉関係事業、コンビニ喫茶食堂など）についても十分に検討すること。
- 当該整備については、投資決定から60か月（5年）以内に工事を終了し利用開始できるようにすること。
- 当該整備に伴い、過去に補助金などにより取得した財産を、解体等により財産処分する場合は、あらかじめ補助金等を交付した関係官署の承認を受けること。
- 工事着工後も償還計画の達成状況を定期的に審査し、よりいっそうの経営改善に努めること。

## ◆主要検討事項

- 嬉野市との等価交換契約締結、交換条件事項の検証  
既存建物利用・解体、岩谷川内ダム（水利権）、温泉源の確保など
- 嬉野市都市計画課、JR九州、路線バス会社、九州電力、ガス供給会社等との調整会議の開催

今回の  
ひとこと

ひとり一人の職員が、他責(人間の本质)から自責への脱却を・・・

新病院建設整備推進室スタッフ一同

# 学会報告

## 国立病院総合医学会に参加して

東3病棟 鈴山真由美



今回、金沢での国立病院総合医学会は、「聴力障害をもつ終末期患者のコミュニケーションで難渋した事例を通して」という演題で、東3病棟で行った看護の振り返りをポスター形式で発表しました。

フロアから、「統一した看護の中で、難聴のある患者に気を付けて行ってきたことは何ですか？」という質問があり、難聴で、読唇術に長けた患者でしたが、発熱・薬による疼痛コントロールにて、意識が朦朧となった時は、筆談、メモをとることで正確な情報

を送り、記憶が途切れないように看護してきた事を説明しました。

一人の患者を全人的に理解することで患者・家族が何を必要としているのか知り、多職種と協同してチーム医療を行うことで統一した看護実践ができ、患者・家族が満足のいく最後を迎えることに繋げることができました。

頑張ってきた症例をポスターにまとめ伝える難しさもありましたが、スタッフ全員の看護がベストポスター賞という形で残りました。発表するまでの緊張感もありましたが、他施設の発表を聴くことで学びも多く実りあるものでした。また、院外発表にてベストポスター賞を受賞した喜びや達成感で、心身共にリフレッシュでき楽しかったです。

研修医 池田 圭

昨年11月金沢にて行われた第67回国立病院総合医学会にて、ポスター発表をさせて頂きました。表題は「当院マダニ刺咬症(SFTS)の1例」と昨年ニュースや新聞でも複数回トピックとして取り上げられていた内容でした。

SFTS(重症熱性血小板減少症候群)は日本でも山口県や佐賀県など数県で確認されている疾患です。今回、当院のマダニ刺咬症例でSFTSを発症し加療により寛解治癒した症例を経験したので、その臨床症状と治療内容を中心に報告しました。ポスターを作成する中で、非常に長い入院経過・治療を数枚のスライドにまとめること、またそれを人に伝える難しさを痛感しました。

また、今回の学会では多くの研修医の先生方が発表されており、僕が遭遇したことのない症例についての発表や、発表する際の工夫などを身をもって感じ、今後の研修、次回の学会発表への新たな意欲になりました。また、北陸地方には初めて訪れたこともあり、気候や食べ物の違いも実感でき、非常に有意義な学会となりました。





## 認定看護師紹介

集中ケア認定看護師 河上ひとみ



現在西2病棟で勤務している河上ひとみです。平成24年7月から平成25年1月までの7ヶ月間北九州市小倉にある西南女学院大学において、集中ケア認定看護師教育課程を受講しました。教育課程では、集中ケア領域における専門的知識や技術、認定看護師に求められる能力についてなどの講義を受け、グループワークなどを通して多くのことを学ぶことができました。また、臨地実習では集中ケア認定看護師としての看護実践能力を高めるとともに、他の看護師の役割モデルとしての機能を果たすために必要な指導や相談の技術を身につけるということを目的として約1か月間の実習をさせて頂きました。

約7ヶ月間の教育課程の研修を経て、平成25年7月に日本看護協会認定の集中ケア認定看護師の資格を取得することができました。集中ケア認定看護師の役割は、生命・身体機能が著しく障害されている患者様に対し、病態の変化を予測し、重篤化を回避できるような看護を提供することです。また、集中治療室に入室される患者様は、突然の発症や受傷により過大なストレスを抱えておられることが多く、患者様はもちろんのこと、患者様の家族も同様に強いストレスを感じておられます。私は、そのような患者様や御家族が少しでも安心して治療を受けることができるように、多職種と連携を図り質の高い看護が提供できるようにしていきたいと思います。

## ★糖尿病食事を開催しました★

栄養管理室  
深澤恵理



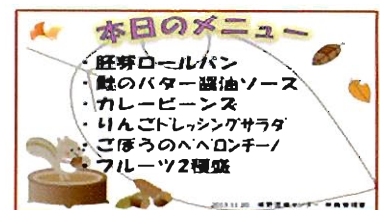
当院では昨年度の糖尿病教室参加者及び外来患者を対象に、毎年11月に糖尿病食事を開催しています。例年、当院の管理栄養士が考えたメニューを外注し、お弁当の形で開催していましたが、今年は調理師さんのお力添えを頂き、主食はパン、おかずは全て当院の手作りで提供する事が出来ました。手作りで提供するのはなんと10年ぶり！

メニューは患者さんの中には神経障害や網膜症を発症されている方もいるため、減塩(6g/日未満)は必須です。「普段家であまり

り作らないような料理で尚且つおいしいと感じる食事の提供」が食事会メニューを考える私のモットーで、パンに含まれている塩分をどうおかずで調整するか…今回の食事会で1番難しかった所です。

そこで閃いたのがりんごの手作りドレッシング！このドレッシングは『りんご・玉ねぎ・人参のすりおろしと酢・黒コショウ』を混ぜた**無塩**のドレッシングです。りんごの甘味と玉ねぎのうまみで無塩とは感じさせずに、さらに人参のオレンジ色でとてもキレイな仕上がりになりました。患者さんからは家で参考にしてみたいと嬉しいご意見を頂き、私の顔もにんまり(o^u^o)

また、年末年始のお付き合いが増えるこの時期に関連して、お酒のカロリーについてクイズをしました。職員も一緒になって参加してもらい、日本酒よりも焼酎の方がカロリーが高い事



実は会場からどよめきが沸き、ノンアルコール梅酒に含まれている砂糖の量(345kcal、砂糖84g)にも皆さん驚かれてました。みなさんも年明けにズボンが入らないっ！ってことがないようにご注意ください。

サポートしてほしい方は栄養管理室までいつでもどうぞ。



## 第61回生「誓いの式」

61回生 江口真子

10月11日、私たち61回生は「誓いの式」を迎えました。昨年までの「戴帽式」とは異なり、ナースキャップの授与はありませんでしたが、61回生みんな理想の看護師になるために、この看護学校で学びたいことや、自分が心がけたいことなどを話し合い、誓うことができました。

誓いの式係を中心に、授業だけでなく、昼休みや放課後も利用して、ナイチンゲール誓詞や校歌を練習し、クラス全体の意識を高めていきました。

「誓いの式」本番を迎え、ナイチンゲール誓詞を宣誓するとき、誓いのことばを述べたとき、看護師になるための一歩を踏み出せたのだと実感しました。

私は、看護師になりたいと思い、この学校に入学しました。看護師になるための講義や技術を学んでいくうちに、看護師という仕事の役割の重さや難しさ、やりがいなどを実感してきました。61回生で考えた言葉を式で誓うことは、私たちにとって新たなスタートになると思います。これから、より深い知識を得るために、勉強も難しくなり、実習も始まり、今まで以上に辛いこともあると思います。しかし、看護師という目標に向かって、クラスの結束力を高めていくこともできると思います。みんなで協力し合いながら、一生懸命頑張っていきたいです。

### 「誓いのことば」

私たち61回生は、個々に応じた適切で温かみのある看護を提供できる看護師を目指します。そのために、学校生活のなかで協調性を養い、高度な技術と根拠に基づいた知識を身につけていくとともに、43人ひとりひとりが自立した責任ある行動をとり、日々成長していくことを、ここに誓います。

1年生担当 阿部容子

嬉野医療センター附属看護学校では、毎年1年生の10月に戴帽式を行っています。これまでは、戴帽としてナースキャップをいただいていたのですが、今年からは戴帽をやめ、保護者や在校生、学校職員の前で、看護師を目指す決意を新たにその志を誓う、「誓いの式」としました。



61 回生 43 名は、ナイチンゲール像から看護の心である灯を受け継ぎ、ナイチンゲール誓詞を斉唱し、クラスで考えた誓いのことばを宣誓しました。

学校長や嬉野医療センター看護部長より、自らの経験をふまえた温かい激励のことばを、また在校生代表として3年生から目指す看護師像にむけて共にがんばろう、とお祝いのことばをいただきました。

61 回生 43 名は、1 月に初めて受け持ちの患者さんに援助を実施する「生活援助技術実習」を6日間行います。不安や緊張が強いなかでも、患者さんやそのご家族、看護師との出会いから多くのことを感じ、これからの看護師人生のなかで忘れられない実習になると思います。

「知識と技術と心とを兼ね備えた看護師になりたい」そのためにどう行動していくか。これからの成長が楽しみです。



平成 25 年 10 月 11 日(金)「誓いの式」

## 第44回 嬉看祭

嬉看祭実行委員長 60回生  
山口成美

今年の10月26日(土)に嬉野医療センター附属看護学校の学校祭である、嬉看祭が開催されました。今年のテーマは「つなぐ～60年間の伝統と未来～」。

今年は嬉野医療センター附属看護学校の開学60周年という記念すべき年でした。今回の嬉看祭で私たちの先輩方が築かれた看護観を知り、同じ看護師という夢を持つ先輩や後輩、クラスメイトや私たちを支えて下さる先生方、病院の方々と、看護に対しての思いを共有しようと考えました。また、

これまでの長い歴史の伝統を引き継いでいくと共に、これからの未来へつないでいくきっかけになればと考え、このテーマとしました。

今回の嬉看祭では、本校の卒業生である先輩方に学生時代の話や臨床での話についてインタビューを行うことで、これまでの学校の歴史や受け継がれてきた思いを知ることができました。そして看護に対する思いを改めて考え、その伝統や思いを引き継いでいるということを確認し、今後どのように行動していけばよいのかを考えるきっかけになったと思います。また、特別講演として藤川幸之助さんより「支える側が支えられるとき」～認知症の母が教えてくれたこと～についての講演をしていただきました。詩人・児童文学作家でもある藤川さんの24年間にもわたる認知症の母の介護の実体験から語られた言葉が、学生だけでなく足を運んで下さった一般の方の心にも響いたことと思います。講演会での話を聞くことで、介護に対する考えの幅を広げることができ、認知症についての理解を深めることができました。

午後からは学生による血圧測定や手浴体験コーナーが設けられたり、学校や先生方にまつわるクイズ大会や学生による出し物、今年の3年生のミス白薔薇賞の発表などでステージが大いに盛り上がり、多くの方が楽しむことができたと思います。また、毎年恒例の日用品バザーや軽食バザー、アフリカの貧しい子どもたちを支援するために設置された組織「アフリカ友の会」によるバザーが開かれ、多くの方が立ち寄って下さり、大盛況でした。



今回の嬉看祭を開催するにあたり、ご協力いただきました地域の皆様をはじめ、学校長、病院関係者の皆様、また学校の先生方に心より感謝したいと思います。来年度の嬉看祭にも、ぜひ足を運んでみて下さい。



## 編集後記

### 環境変化対応力

変化が非常に激しい今の時代、生き残るものは強いものでも賢いものでもない。重要なのは環境変化への適応力である。少し言いかえると、どんな時代でもサバイバルできる、どんな環境に置かれても自分の頭で考え稼げる人材＝「自律型変革適応人材」が切望されているようだ。欲される人的資源は、瞬間的でなく①再現性のある知識を備えている人②その知識を実践して結果を出す力をもっている人・・・そういう人かもしれない。